

東松島市



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を安定させるための17の目標



SDGs シンポジウム

パネルディスカッション 登壇者プロフィール

【コーディネーター】

おおば まさひろ

東北大学大学院環境科学研究科 助教 大庭 雅寛 氏

平成14年筑波大学大学院化学研究科修了、博士(理学)取得。平成18年～27年は東北大学大学院理学研究科で地球温暖化による生物大量絶滅の研究を行う。平成28年からは環境科学研究科・環境研究推進センターの特任助教。産学官連携担当として、研究成果の社会実装の実現への取り組みを加速していくとともに、研究のアウトリーチ活動・環境教育の推進・研究成果の普及啓発等を積極的に行っている。平成31年2月には東松島市と環境科学研究科で地域社会でのSDGs推進等を連携し進めていくことを目的とした協定を締結している。



【パネラー】

貴凜庁株式会社(キボッチャ)代表取締役

みい きよこ

三井 紀代子 氏



平成28年7月27日貴凜庁株式会社設立。代表取締役に就任。被災した旧野蒜小学校校舎を改修し、防災体験型宿泊施設「KIBOTCHA(キボッチャ)」を平成29年7月にグランドオープン。特色として、自衛隊・警察・消防OBの持つ防災ノウハウを用いたセミナーや、防災体験学習とエンターテインメントの融合施設の管理運営を行い、心豊かな未来を創造できる教育施設を提供するとともに、地域の発展に貢献する事業を展開。



【パネラー】

農業法人株式会社イグナルファーム代表取締役

さとう たけのり

佐藤 雄則 氏

震災により被災し壊滅的な被害を受けた個人で農業を営んでいた佐藤氏を含む若手農業者4人が、農業の復興と持続可能な地元農業の発展の実現ため、平成23年12月に農業法人イグナルファームを設立。現在、園芸施設でイチゴ1.4ヘクタール、キュウリ1ヘクタール、ミニトマト1ヘクタール、露地でネギ3ヘクタールを作付。地元雇用を積極的に図りながら、6次産業化も展開し、加工品製造も手掛けるほか、イチゴ狩りのできる観光農園や体験学習の実施なども取り入れ、生産者との交流機会の創出や次世代の担い手育成にも注力している。

【パネラー】

アイザワ水産代表

あいざわ ふとし

相澤 太 氏

海苔漁師アイザワ水産の三代目代表。奉獻乾海苔品評会にて2004年に準優賞、2009年に優賞を史上最年少で受賞し、大曲浜の皇室献上海苔のブランド化に尽力。震災で壊滅した浜の復興を若手漁業者のリーダーとして牽引した。漁師として一生で一番美味しい海苔“一生一品”を目指す傍ら、その経験を全国に発信する活動も精力的に行っており、昨年度は市と震災復興に向けた連携・協力協定を締結するデンマークラン市でワークショップを行うなど、一次産業を盛り上げる次世代リーダーとして活躍。



【パネラー】

あつみ いわお

東松島市長 渥美 巖



昭和41年4月矢本町役場入庁。平成7年1月に退職し、同年4月に宮城県議会議員に初当選。連続6期を務める中、平成25年12月から平成27年11月までは副議長を務めた。平成29年4月より現職。ふるさと東松島の復興を加速させ、復興のモデル都市を目指している。創造的復興への取組が評価され、平成30年6月に内閣府より全国29の自治体の一つとして「SDGs未来都市」に認定され、SDGsの大きな目標である「住み続けられるまちづくり」を目指し、震災復興・地方創生に尽力。